

日本各地の方言を研究する社会言語学者の岸江信介教授。約40年にわたり近畿各地で聞き取り調査や通信調査を行い、「近畿言語地図」を完成されました。近年は、対人コミュニケーションにおいて相手との関係を良好に保つことに配慮して用いられる言語表現である「配慮表現」に着目し、調査研究を行っています。また、「やさかい〜」など古くから伝わってきた「伝統方言」から、「うざい」「ちがかった」などの若い人の間で定着していった言葉や、「あーね」（そうだね）のような、SNSで使われる「打ち言葉」などの「新方言」まで、幅広く調査・研究されています。

フィールドワークに惹かれて方言研究の道へ

卒業論文で方言研究をテーマにしようと思ったことが方言学を始めるきっかけとなりました。学生時代、国文学を専攻したのですが、卒業論文のテーマでは、たいへん悩みました。

万葉集や芭蕉の研究にも非常に興味があり、最終的にどれにしようかと迷いました。結局、方言の研究をすることに決めたのですが、方言研究にはフィールドワークが不可欠で、これがとても楽しそうに思えたのです。自分が行ったことのない地域を訪ねて、その土地の古老から方言について学ぶということがたいへん魅力的に思われました。文献の研究を中心としたデスクワークに加え、フィールドワークの楽しみを知ると、学問や研究に対する興味が何倍も膨らみました。

地理的研究からツイッターデータ利用まで幅広く研究

方言の研究にもさまざまな方法があります。これまで最も多く関わった研究は方言の地理的研究です。方言の地理的分布を明らかにするため、方言調査を行い、言語地図を作成し、これを解釈するというものです。この研究では方言がどのように変遷したか、地理的分布をもとに明らかにしようとしています。最近では、この地理的研究を利用して、SNS(主にツイッター)のデータを地図化し、地域差を明らかにしたり、流行語などの発生と衰退などについて分析したりしています。ツイッターのなかにも、方言が使われることがあるためです。ツイッターのデータを利用した方言研究が有効であることを証明し、ツイッターデータを用いた方言研究を一般化したいと考えています。

かけがえのない出会いと語らう楽しさ

方言の調査では多くの人々に出会います。その多くは、その土地土地の伝統方言の語り部たちです。「一期一会」という言葉がありますが、方言の調査に出ると、多くの方々とかけがえのない、大切な出会いがあります。このような出会いの多くは、いずれも一生忘れられないことのできない思い出となっています。古老の方々からは地元の方言だけではなく、いろいろと多くのことを学ぶことができます。初対面の人と会って話すのが苦手な人でも、このような経験を積むことで、人と語らうことはこんなに楽しいものなのかということも学ぶこともできるでしょう。多くの方々と話すことで、コミュニケーション能力を高めることもできます。

受験生へのメッセージ

方言はいま、衰退の一途をたどり、21世紀末には消滅すると言われてます。地元の方言に耳を傾け、話されている方言を記録してみたいかでしょうか。古典に現れることばが現在でもまだ残っています。古典のことばを手がかりに方言に残された古語を発掘するというのもおもしろいかもしれません。現代日本語が山の頂上とするならすそ野に広がるのが方言です。方言の研究をすることで、あらためて現代日本語を見直すことも日本語を深く知るうえで大切なことだと思います。

研究室紹介

文学部 国文学科

KISHIE Shinsuke

岸江 信介 教授

1953(昭和28)年三重県生まれ。
愛知大学文学部国文学科卒業。
大阪市立高等学校教諭、宮崎国際大学比較文化学部比較文化学科専任助教授、徳島大学総合科学部人間社会学科教授を経て、2019(平成31)年4月本学着任。
専門は国語学・方言学・社会言語学。
著書に『都市と周縁のことば』(共著・和泉書院)、『テキストマイニングによる言語研究』(共著・ひつじ書房)などがある。

ならぶ Vol.184 ●発行:令和2年5月 ●発行:奈良大学 〒631-8502 奈良市山陵町1500 TEL 0742-244-1251(代) URL <http://www.nara-u.ac.jp/> Email kouhou@oagaku.nara-u.ac.jp ●編集:奈良大学広報室

ならぶ

Na Love

Nara University Bulletin Vol.184

 奈良大学
NARA UNIVERSITY



所 / 信 / 表 / 明 /

学長

清水 哲郎

SHIMIZU Tetsuro



Contents

- 1 学長 所信表明
- 3 奈良大学図書館
- 5 古典籍・史料調査
- 6 サークル紹介
囲碁普及会「あをによし」
- 7 自主勉強会で
「なりたい自分」に
近づく！
- 9 トピックス
- 10 インフォメーション
- 11 研究室紹介
文学部国文学科
岸江 信介 教授

このたび、はからずも学長に再任されました。変化の激しいこのような時代に皆さまのご期待に十分応えられるのか、責任の重さに身の引き締まる思いがいたします。皆さまのご協力を得て、2年間全力で職責を全うしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本学を取り巻く状況

ご存知のように、本学は現在、定員厳格化及び安全志向受験の影響から堅調な入学者確保の状況にあります。しかし、このバブル状態は予定調和的に遅かれ早かれ崩壊します。特に、18歳人口は2024年にかけて現在の117万人から106万人へと11万人も急減します。また中教審グランドデザイン答申の2040年には88万人と、現在の約75%に縮小すると予測されています。本学を取り巻くこの基本的な動向を前提に、この所信では中期的な視座から対応策の一部を考えてみたいと思います。

ブランディング戦略と大学運営

大学のマーケット構造は、買い手市場へと本質的变化を遂げ厳しい環境にあります。大学経営を安定させるためには受験生から「選ばれ続ける仕組み」作りが大切です。大学のブランディングにはUI戦略が効果的ですが、本学は株式会社 博報堂・共同精版印刷株式会社に委

託してこの戦略を2016年から導入し、メディア露出やログ解析などの指標からかなりの成果を上げていることが分かります。今後も、費用対効果をみながら有効な広報戦略を展開していく必要があります。受験生確保のための科学的な方策に関しては毎月志願者確保戦略会議を開催し、詳細な地域データ等を基に効果的な戦略を立てています。大学運営では、懸案の学部会と教授会の重複回避や委員会の整理・統合など効率的な組織改革が検討課題となります。大学運営の基本的スタンスとしてこれまで同様に、戦略的な施策についてはトップダウンで、教育研究面では、現場の意見を汲み上げるボトムアップで行うことが重要と考えています。なお、中長期的には学部・学科の改組・改編の検討も必要不可欠と考えております。

学生ファーストの教育

周知のとおり、本学では、中教審グランドデザイン答申を考慮に入れながら中期教育第1次5ヶ年計画を公表しましたが、そこでは「学生一人ひとりを大切に」教育施策が重要な骨子となっています。例えば、教育の質保証・向上を目指す教育課程の体系化・構造化と組織的展開、総合的學生支援体制の強化と退学者の低減、生涯を通じた就業力の育成などで、いずれも本学が直面する解決すべき課題です。特に、総合的學生支援体制の強化と退学者の低減では、障害學生支援委員会と学習支援委員会を2020年4月から立ち上げ、同時に事務組織の強化を図り、また學生相談室のカウンセラーも基本的には月曜から土曜日まで3人体制と1名増員しました。學生ファーストの観点から學生の満足度を向上させることは極めて重要な課題で、學生のための大学づくりを行うことが重要です。昨年実施された「卒業生アンケート」(回答者

367名)によれば、奈良大学全般の満足度や学びの項目ではかなり満足度は高かったのですが、施設設備面や食堂・喫茶、事務局窓口対応に関しては若干満足度は低くなっていました。満足度を高めるためには安全・安心・アメニティ向上の視点からの環境整備が必要であると思われる。

高度で多様な研究

研究は、大学における教育や社会貢献の基盤です。本学は小規模ながらも学問の多様性を保ち、さまざまな分野で高度な研究活動が展開されています。個人研究費について、本学の研究費の水準はほぼ全国平均レベルです。この研究費を背景に、科研費等さまざまな外部資金獲得に関して本学教職員の健闘は高く評価できます。科研費の新規採択率では過去5年間の平均で42.9%で研究機関別採択率の上位10位くらいに位置します。採択額でも健闘しています。しかし、研究費に関しては、研究活動に応じたインセンティブ及び競争原理も必要であり、今後検討すべき課題の一つであると考えています。また、本学の強みで特色ある研究をさらに伸ばし、本学を世界・日本における、また地域における「知の拠点」として存続、発展させることが重要な課題です。

最後に、創立50周年を昨年終えた本学にとって、今年は新たな半世紀を飛躍の時代にしていく重要なスタート地点の年だと位置づけています。本学の強み、特色を明確にし、社会的役割(ミッション)を一層果たしていくため、本学のさまざまな機能の強化を図る必要があります。教育・研究の一層の充実と活性化を図り、さらなる発展を目指していきたいと考えておりますので、今後とも皆さまの格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

奈良大学図書館



平安時代の金剛力士像が出迎えてくれる奈良大学図書館は、北館・南館からなる地上3階・地下2階(総床面積5,444㎡)の施設です。人文学関係の専門的な学術書や学術雑誌を中心に、約55万冊(和図書47万冊・洋図書4万冊・中国図書4万冊)の蔵書を有しています。

学生・大学院生や教員が頻繁に活用している図書館は、卒業生も利用でき、地域の社会人の方の閲覧が可能です。また期間限定ですが、高校生のための自習開放も行っています。

※卒業生の利用については、奈良大学図書館ホームページ(<http://library.nara-u.ac.jp/>)ご利用案内をご確認ください。社会人の方の閲覧については、申請(窓口のみ)と住所を確認できるものの提示が必要です。



奈良大学図書館

海外からも注目

特色ある蔵書のなかには、一般には入手困難な発掘調査報告書を含む日本考古学協会寄贈の6万冊があります。

同協会の寄贈書をはじめとする文化財専門書は15万冊を超え、質量ともに他大学を圧倒し、国内外から注目されています。また、奈良に関係する資料や都道府県史も充実しています。

さらに、本学で教鞭をとられた先生方(故人)の、旧蔵書も寄贈されています。元奈良大学学長で考古学者の水野正好名誉教授の研究資料を集めた「水野文庫」をはじめ、元教授の小野川秀美氏(東洋史)、藤岡謙二郎氏(地理学)、毛利久氏(仏教美術)の各文庫です。



ユニークな学生選書

図書館の新たな蔵書を選定する「選書」は、通常教員や図書館員が行いますが、年に2回、学生参加型の企画「学生選書」を実施しています。

図書館員と共に奈良市内の書店に向き、参加学生が、決められたルールと金額の範囲内で、自由に図書を選びます。

歴史、心理学など、学生がそれぞれの興味の対象をテーマに選書するため、学生目線や、奈良大生ならではの書籍が選ばれるのが「学生選書」の特徴です。

選んだ図書は、後日、参加学生がPOPやポスターなどを作り、学生選書コーナーに展示されます。手作りPOPは、親近感が湧き、読んでみたくないと好評です。



春休み・夏休みの高校生自習開放

大学図書館の雰囲気を経験してもらおうと、春期(2・3月)と夏期(7~9月)の一定期間に、「高校生のための自習開放」を行っています。

他の公共図書館にはない専門書が豊富で、学習熱心な高校生に好評を得ています。



企画展示は貴重書を目にするチャンス

奈良大学図書館には、自由に閲覧できる開架図書が約51万冊、また閉架書庫には約4万冊が収められています。これらの中には貴重な古典籍や史料がたくさんあり、特に、閉架書庫には、貴重書と呼ばれる、閲覧できない書籍もあります。

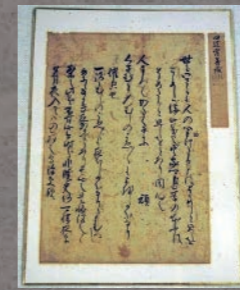
破損や劣化の恐れがあるため、貴重書やそれに準ずる貴重な蔵書は通常閲覧できませんが、本学の6学科が順番に担当して開かれる、春と秋の図書館企画展で展示・紹介されることがあります。また、学びの一環として、教員の指導のもと、学生や大学院生が貴重書を間近で見られることもあります。

現存する世界最古の印刷物とされ、『続日本紀』にも記載のある『百万塔陀羅尼経』(奈良時代)は、企画展示室に常設しているので、開室時にはご覧いただくことができます。

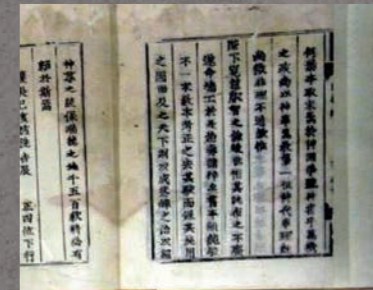
貴重書を含む蔵書の数々(抜粋)



『伊勢物語和歌註』(室町時代後期)



古筆切「細川切」(室町時代中期写)



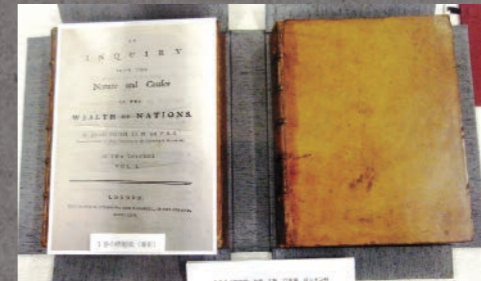
『日本書紀』(慶長勅版/江戸時代初期)



『百万塔陀羅尼経』(奈良時代)



『修紫田舎源氏』(江戸時代後期)



アダム・スミス『国富論』(初版2巻/1776年)



ダーウィン『種の起源』(初版/1859年)



奈良絵本『花鳥風月』(江戸時代後期)

蔵書の家

『長谷寺縁起』には、裏表紙に「武州児玉郡阿那志村春山氏庄治」、裏表紙見返しには「此本何方参り候とも何卒そをそ、御かゝし被下候」(この本は、誰のところにいっても、早く返してくださいね)とあり、貸本扱いられていたことがわかります。

この本を所蔵していた武蔵国の春山家は、村のなかで図書館的な役割をしていたと考えられます。近世日本史研究では、このような家を「蔵書の家」と呼ぶことがあります。

古典籍・史料調査

「奈良大学図書館」で紹介した貴重な古典籍や史料を含む膨大な蔵書について、学生や研究者の皆さんが利用しやすいように、整理し、全容を把握して、目録をデジタルデータ化するプロジェクト「古典籍・史料調査」が進められています。

文学部国文学科・史学科・地理学科の教員が学生と共に進めているこの調査は、本年度で4年目を迎えました。蔵書を1点1点調べ、調査カードにタイトルや寸法、類推した年代などを記入した後、PCを用いてデータ化しています。

調査の過程で思わぬ発見があり、新たな研究につながることもあります。各学科の特徴を活かした取り組みを紹介します。

国文学科

日本中から収集した古典籍(和本)を中心に、蔵書の調査をしています。

貴重な蔵書も、年月の経過とともに忘れ去られることがあります。目録を作り「善本」を明確化して、今後多くの人に活用してもらおうと、すでに約3千冊の調査を行っています。

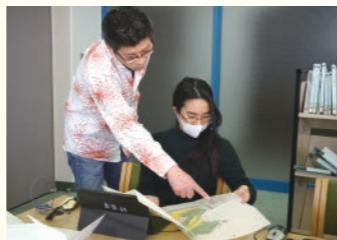
「体験する国文学」を合言葉にする国文学科にとって、このプロジェクトはまさに生の貴重な資料に触れることのできる絶好の機会となっています。また、「くずし字が読めるようになった」と、参加学生から好評を得ています。



史学科

各種の和本のほか、古文書類(戦前・戦後の行政文書も含む)を中心に、調査を進めています。基本的には、全てを調査・整理することを目標としています。一箱の中に大量の文書が入っている場合もありますが、せつかくの史料を「埋もらせない」という使命感のもと、地道に目録づくりに努めています。まさに膨大な蔵書群のなかに「何かあるか?」がテーマのような調査で、参加した学生も新たな発見の喜びを味わっています。

この貴重な目録データは、すでに大学内では共有されていますが、図書館HPを通して本学所蔵史料を広く公開することが今後の課題です。



地理学科で調査を指導する土平博教授(歴史地理学)は、「特に地元にとって貴重な奈良県の史料を、書庫のなかで眠らせないようにしたいです。史料の利用によって研究が進むための基盤づくりができればと思っています。将来、高解像度の画像としても保存していきたいです」と抱負を語っています。

また、調査に携わった地理学科2年生の福富果歩さんは、「さまざまな絵図・地図に触れ、どのような内容が描かれているかを読み解くことができ、楽しかったです。普段、絵図・地図に触れる機会は少ないので、貴重な経験をすることができました。史料の内容に関することや、くずし字のことも教えていただき良かったです」と話しています。

一口メモ

古典籍

古典籍とは、おおむね幕末までに国内で書写、出版された価値の高い書籍類のことを指します。国文学では文学作品を中心としますが、調査にあたっては古文書や絵図なども含めて古典籍・史料と表現しています。

地理学科

絵図を中心に行っている調査では、タイトルや寸法を確認するだけでなく、内容の解説を作成することが大きな目標です。

撮影した絵図の画像は、拡大表示して、さまざまな視点から検討します。検討結果をもとに、指導教員からアドバイスを受けながら、学生が丁寧に解説文書を作ります。これにより、例えば複数の絵図がセットになっている史料でも、解説文書を読めば、実物を見る前に概要がわかるようになります。



Club & Circle

囲碁普及会「あをによし」

囲碁はいわば陣地取りゲームです。初心者も経験者も、楽しく碁盤に向かいます。一番の魅力は、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の人と関われることではないでしょうか。

「あをによし」では、毎月第2日曜日に、奈良市総合福祉センターで視覚障がいの方と9路盤の囲碁の対局をしたり、初心者への指導をさせていただき活動を行っています。触覚や聴覚を使って碁を打つ皆さんの能力に、今まで自分が持っていた障がいに対する認識が変わりました。

昨年11月には、大阪で開催された「第22回全国障害者囲碁大会」(日本視覚障害者囲碁普及会主催)に出場しました。視覚障がい者、身体障がい者、晴眼者などが、障がいを越えた互角対局をするこの大会は、棋力別8クラスに分かれており、「あをによし」は5年連続の参加となりました。今年は4人がエントリーし、よい成績を収めることができました。

学内の活動では、地域の方が通常盤(19路盤)の指導に来てくださることもあります。対局の後に、美味しいおやつをいただきながら、人生の先輩たちと歴史談議に花が咲くこともしばしばあり、和気あいあいとした活動をしています。



活動場所の和室(福利厚生棟2階)で、地域の方々と対局



「第22回全国障害者囲碁大会」での記念撮影。左から増井さん(シングルクラス優勝)、水野良紀さん(史学科2年生/中級クラス準優勝)、石川貴英さん(文化財学科2年生/初級クラス優勝)

紹介者



会長
増井智之さん
文学部史学科
3年生

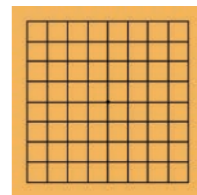
囲碁といえば19路盤をイメージしがちですが、9路盤囲碁は初心者向けでもあり、もっと多くの人に親しんでもらいたいです。

受験生へメッセージ

メンバーの8割が初心者です。囲碁に興味があれば、まったく知らなくても大歓迎。分かりやすく初心者でも楽しめる9路盤囲碁から一緒に始めましょう。

DATA

人数:11人(男性9人・女性2人)
活動日:水・木曜日 活動場所:おもに和室



9路盤

通常の19路盤に比べて、目の少ない9x9格子の碁盤。打った碁石の棋譜を読み上げ、碁石に触って位置を確認する対局の場合、9路盤は、時間がかからず、間違えることも少なく、対局者の負担が少ないと言われている。

自主勉強会で「なりたい自分」に近づく！

奈良大学図書館情報学研究会 (NATOKEN)

令和元年10月に発足！

令和元(2019)年10月より、司書課程履修者に呼び掛けて「奈良大学図書館情報学研究会」(略称:NATOKEN)を発足しました。基本的には学生自身が興味を持った活動を進めていくことをコンセプトにし、「図書館についての研究」、「図書館司書採用試験対策に関する学習」、「他学の図書館情報学研究団体との交流活動」、「活動内容を学外へ発信」(例:「ビブリオバトル」「読み聞かせ」「調査・研究の発信」)などを行って行くことを目的としています。

図書館は、単に「本を借りるところ」や「勉強をする場所」ではありません。個人の自立を支えつつ、まちづくりにも貢献する図書館の広い世界を研究していきます。

図書館にかかわるさまざまなアプローチ

昨年度には、大学から程近い国立国会図書館関西館に見学に行きました。今後、研究してみたいことに、住民との協働による図書館整備・運営というテーマがあります。連携包括協定を締結している山添村では、村内に図書館がないことからその整備に関するご相談を司書課程にいただいています。こうした図書館整備プロセスに研究会が参画することで、司書課程で学ぶ学生にとって貴重なフィールドが広がるものと思います。このほかにも、大学図書館における学生協働というテーマも視野に入れていきます。



企画展示に参加したNATOKENの皆さん

奈良大学図書館とコラボの企画展示

奈良大学図書館とのコラボ企画として、1月に企画展示をさせていただきました。「ホッとひといきついでませんか?」をメインテーマに、学生が勉強の合間にリラックスできる本を展示する企画として、NATOKENメンバーそれぞれがテーマを設定し、図書を選びました。POPや展示ポスターの作成等、メンバーが初めて体験することも多く、協力して創り上げていきました。

奈良大学図書館は、さまざまなイベント企画を実施しているので、NATOKENも参加させていただき、学生にいろいろな経験を重ねてもらいたいと思っています。



企画展示「ホッとひといきついでませんか?」

本学では、学生の自主的な学びをサポートするさまざまな勉強会が開かれています。今号ではキャリアサポートに焦点を当て、「奈良大学図書館情報学研究会」と「奈良大学教職学習会」の2つを紹介します。ナビゲーターはそれぞれの顧問の嶋田学教授(文化財学科)と中戸義雄教授(史学科)です。受け身ではなく、自ら積極的に学ぶ勉強会等を活用し、進路を切り拓いた先輩たちの声をお届けします。

奈良大学教職学習会 (SGTP:Study Group for Teaching Professional)

日本全国そして世界の教育の場で活動中！

教職学習会の始まりは15年前です。平成17(2005)年1月にスタートし、現在16期生が活動中。主に以下のような活動を行っています。

- ◎「教育問題に関するディスカッション」年間10数回程度。
- ◎「模擬授業」年間30~40回程度。現職OB&OGが行うことも。
- ◎「教員採用試験対策」願書の書き方、小論文対策、個人・集団面接練習、模擬授業などを年間20回程度。
- ◎「教育実践報告会」現職教員による実践報告会。毎年8月開催。

その他「各期発足会」や「教材研究会」そして「飲み会」も。現時点で公立学校の教諭(正教員)となったのは70人近く、講師や塾・専門学校講師などを含めると100人以上が教育に携わっています。また、活動地域も北海道から九州まで全国に広がり、JICA青年海外協力隊ボランティアとしてアフリカのカメルーンやタンザニアで環境教育や初等教育に従事しているメンバーもいます。

なお、教職学習会の実践記録は『私立大学の特色ある教職課程事例集』(全私教協 2014年5月)に掲載されました。

教育実践報告会

学習会10期頃には活動が非常に活発化し、教員となるメンバーも増えてきました。在学中の活動だけで終わるのではなく、現職教員である既卒メンバーと現役学生との相互交流や教員の研修機会を設けようと考えていました。それを実現するため、平成26(2014)年~



SGTP14期&15期メンバー

毎年8月に「教育実践報告会」を開催しています。毎回2名の既卒メンバーが各30分で自分の実践を報告し、その後参加者と質疑を行っています。各報告内容は『奈良大学教職課程報告』に掲載されます。

写真は昨年の第6回報告会で、加藤和美さん(11期・地理学科卒)による「JICAボランティア カメルーン2年間の実践報告」での質疑の様子です。



「JICAボランティア カメルーン2年間の実践報告」の様子



顧問
嶋田 学

文化財学科・教授
(共通教育:
司書課程担当)

司書は、単に資料・情報の提供者として座して人を待つのではなく、現代社会のさまざまな課題に向き合うこととなる市民を気づきや学びの入口に案内する、情報の水先案内人ではなくてはならないでしょう。

AIの発展が、人や社会のあり方を変えるかもしれないと言われています。一方で、情報の処理や活用をAIが担うのであれば、今こそ人は「生命・生活」といった幸福感を充足することが大切ではないかという議論もあります。

司書という仕事は、まさにまだ見ぬこの領域に、広くて深い役割があるのではないかと思います。そうしたことを、NATOKENの学生とともに探っていければと考えています。



板橋 愛さん

国立大学法人神戸大学
(図書職)
文学部史学科
平成30(2018)年3月卒業

平成30(2018)年4月より神戸大学附属図書館で勤務しています。

在学中は司書課程の先生の研究室に伺ってご指導いただいたり、図書館に関わるシンポジウムやインターンシップに参加したりと、座学だけでなく外に出てさまざまなことに挑戦しました。その経験は新たな出会いや学びのきっかけとなり、就職活動はもちろん、仕事においても活かしています。

ぜひ皆さんも、NATOKENをはじめ興味のあることに積極的に挑戦して自分の視野と可能性を広げてほしいと思います。



顧問
中戸 義雄

史学科・教授
(共通教育:
教職課程担当)

着任した年(平成16(2004)年)の11月頃に、私の授業を履修している3年次生数名が研究室に来て「来年教採を受けるが、自分たちだけでは不安なので力を貸してほしい」とのこと。当時、現役で合格した人が直近数年間いないという情報を私も聞いており、危機感を覚えていました。そこで、学習会をスタートさせたのです。難関である高校地理に10年がかりで合格したり、奈良県高校地歴を1位で合格するなど、彼(女)らの「潜在的な能力」や「伸びしろ」を感じる場面はたくさんあります。特に最近では、現職教員のOB&OGたちが、現役メンバーをサポートしてくれています。



吉川 夢華さん

奈良県教育委員会
(中学校教員)
文学部国文学科
令和2(2020)年3月卒業

教員志望の学生が集まる「教職学習会」で、仲間と励ましあいながら教員を目指しました。教員として活躍中の先輩たちも会に参加して下さるので、現場の生の声が聞くことができ勉強になりました。また教員採用試験前には、先輩や顧問の中戸先生が模擬面接をして下さり、いただいたアドバイスがとても役立ちました。大学の講義にプラスして、学習会の活動があったからこそこの合格です。大学での学びを活かし、子どもたちとの学校生活を楽しまたいです。

留学生送別会



1年間の交換留学を終える中国・韓国からの令和元年度の受入留学生の送別会が1月30日(木)に開催されました。受入留学生5人は、清水哲郎学長、指導教員、事務職員、学生など約40人の参加者らと歓談し別れを惜しまました。

図書館企画展

文学部国文学科木田隆文教授・光石亜由美教授企画・監修の「越境する女性作家たち―内地から外地、そして戦前から戦後へ」を1月6日(月)より開催しました。



一般的な文学史ではあまり取り上げられることのなかった、「外地」へ渡った女性作家たちにスポットを当てた同企画展では、植民地朝鮮で育てられ獄中手記を記した金子文子、また満洲で活動した女性作家・牛島春子、日本統治時代の台湾で台湾人として日本語教育を受け、戦後、日本人として帰化した黄氏鳳姿の作品などが紹介され、彼女たちがどのような体験をし、戦争にどのように向き合ったのか、戦後日本においてどのように生き、いかに戦前・戦中の体験を作品化したのか、著書を中心に概観しました。

博物館企画展



文学部文化財学科の原口志津子教授が企画・監修した「富山市・長松山本法寺蔵法華経曼荼羅図の世界―描かれたくらし―」を2月28日(金)より開催しました。富山県富山市八尾町の歴史ある古刹・本法寺に伝わる「法華経曼荼羅図」(全22幅)は鎌倉時代末期制作のものとしており、第1幅は富山市指定文化財、第2～22幅は国指定重要文化財です。本展では高精密画質で撮影・出力した原寸大の複製品11幅を展示し、そこに描かれている人々の当時のくらしに注目してご覧いただきました。

附属高等学校

「地域未来プロジェクト～ならism～」に参加

2月15日(土)、生徒会役員有志が奈良市ならまちセンターでおこなわれた奈良県商工会議所青年部主催の「地域未来プロジェクト～ならism～」に参加しました。

「奈良をつくる主役になろう!!」をテーマに、奈良のこれからのまちづくりについて見つめ直そうというこの地域未来プロジェクトには、奈良の未来を考えたい高校生たちが集まりました。カリスマ添乗員としてテレビでも活躍している平田進也氏の記念講演の後、A「新たな出会いが奈良の未来を創る」グループディスカッション、B「奈良で活躍する企業を知ろう」職業実習体験、C「家族野菜を未来につなぐ」特別授業・食文化体験という三つの分科会にそれぞれ分かれて参加しました。他校の高校生と交流するとともに、奈良の魅力について再発見できたようです。



附属幼稚園

第53回卒園式

3月16日(月)、園舎内のホールで、卒園式が執り行われました。登園した園児が通いなれた保育室へ入ると、先生が笑顔で出迎えました。「卒園おめでとう」と言いながら、園児の胸元にコサージュをつけた時、「今日が最後の日なんだ」とジーンと熱くなっている園児の心が、先生にも伝わってきました。式が始まるとピッと背筋を伸ばし、頼もしい横顔の子どもたち。一人ひとり証書を受け取り、無事卒園となりました。式の後には、記念品が手渡され、先生やお友達とお別れのご挨拶や写真撮影などをして、終始和やかに過ごすことができました。年長さん、卒園おめでとう。これからも、どんどん大きくなるみんなの事を応援しているよ。
※新型コロナウイルス感染予防対策を行ったうえで実施しました。



■ 浅川正美理事長就任



学校法人奈良大学は、市川良哉理事長(令和2年1月18日(土) 逝去)の後任として、3月17日(火)開催の理事会において、浅川正美理事(学校法人奈良大学本部事務局長)を選任、同日付で就任しました。

●主な経歴		
昭和51年 1月	奈良大学事務局入職	
昭和56年 4月	本部事務局人事課	
平成8年 4月	奈良大学附属高等学校事務室事務長	
平成18年 7月	学校法人奈良大学本部事務局長就任	
平成18年 7月	学校法人奈良大学理事就任	
令和2年 3月	学校法人奈良大学理事長就任	

■ 創設者・藪内敬治郎先生の命日墓参

学校法人奈良大学の創設者である藪内敬治郎先生の命日にあたる4月21日(火)、浅川理事長、本部事務局職員らが藪内先生のお墓参りをしました。藪内先生のご遺徳を偲び、お念仏を唱え、お墓に手を合わせました。

■ 近刊紹介～本学教員の著書～

◆奈良大ブックレット08

奈良の文学とことば

文学部国文学科 教授・岸江信介 著／
教授・木田隆文 著／
教授・光石亜由美 著／
講師(現 准教授)・中尾和昇 著／
講師・松本大 著／
講師・山田昇平 著
ナカニシヤ出版 2020年3月刊行



◆古代の都【児童書】

文学部国文学科・教授 上野誠 監修
ミネルヴァ書房
2020年2月刊行



◆日本史リブレット人007・聖武天皇

帝王としての自覚と苦惱
名誉教授 寺崎保広 著
山川出版社 2020年3月刊行

◆民法7 親族・相続 第6版

文学部文化財学科・教授 床谷文雄 共著
有斐閣 2020年3月刊行

◆都市経営研究叢書4

公立図書館と都市経営の現在
～地域社会の絆・醸成へのチャレンジ～
文学部文化財学科・教授 嶋田学 分担執筆
日本評論社 2020年3月刊行

◆Broadcast:ABC World News Tonight2

文学部文化財学科・教授 山根キャサリン 共編著
金星堂 2020年度新刊

■ 学生プロジェクト
「Buddience」文化庁メディア芸術祭 エンタメ部門新人賞に!

学生プロジェクト「Buddience 仏像の

顔貌を科学する」では、学生たちが仏像の顔貌をAIで分析し、8つの指標で数値化、これをもとに奈良大学がWEBサイトを作成しました。

コンテンツの1つである「仏像顔診断」は顔写真をアップロードすると、仏像17種類の中から自分の感情にフィットした仏像を教えてくれるもので、テクノロジーを用いた仏像との新しい結縁(けちえん)の形を提案しました。この「Buddience」のサイト(<https://www.nara-u.ac.jp/buddience/>)が文化庁メディア芸術祭でエンターテインメント部門新人賞を受賞しました。同芸術祭は、アート・エンターテインメント・アニメーション・マンガの4部門において、優れた作品を顕彰し、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルです。第23回は、世界107の国と地域から3,566点の作品の応募がありました。



「Buddience」サイト

■ 第14回「全国高校生歴史フォーラム」

本学と奈良県が主催する「全国高校生歴史フォーラム」を、今年度も開催します。全国の高校生を対象に、地域の歴史や地理、史跡、文化財、文学、人物などに関する研究レポートを募集します。

応募締切は9月2日(水)[当日消印有効]で、審査結果は10月9日(金)、全国高校生歴史フォーラム(奈良大学ホームページ内)及び奈良県「なら記紀・万葉」のHP上で発表します。応募詳細は全国高校生歴史フォーラムホームページ(<http://www.nara-u.ac.jp/forum/>)をご確認ください。お問い合わせは、全国高校生歴史フォーラム実行委員会(奈良大学内0742-41-9588)まで。



全国高校生歴史フォーラム